

夢を目指す皆さんへ贈るメッセージ



原田忠士

資格取得のために学んだことで、治療の現場に立った時、実際にすぐ役だったのは「触診技術」と「機能解剖学」。

この2つは、患者様を適切に評価し、施術する上でとても重要なもので、これがわからなければ施術はできないと言っていいくらい、重要な勉強です。

しっかりと学んで頂きたい、トレーナーとして必須の技術と知識です。



ちます。
現在勤務する「ケアウイング曙」は、デイサービスセンター・鍼灸あんまマッサージ院・接骨院・トレーニングセンターと、多くの機能を兼ね備えた複合型健康施設。原田さんは、院内業務とともに、トレーナーとして、NTT西日本ソフトテニス部、広島翔洋高等学校サッカー部などの帯同も続けています。2016年若手、2017年長野の冬季国体にも帯同。病院勤務とトレーナーの両立を果たしています。
柔道整復師が開業する接骨院・整骨院では、ケガの治療には健康保険が適用されます。一方で、保険に関係のない、「自由診療」を行う接骨院・整骨院も多く、鍼灸やマッサージ、整体などの治療院との違いや、柔道整復師の専門性がわかりづらい、という現実もあります。
原田さんはこの点について、柔道整復師みずからが専門性をさらに磨き、役割や価値について正しく伝え、広めることで、患者様に理解して頂

きたいと願っています。
病院に勤務する原田さんとしてはさらに、柔道整復の保険診療が安定化し、柔道整復師の役割が、さらに価値あるものになることを望んでいます。



ケアウイング曙 勤務
広島翔洋高校サッカー部帯同

原田 忠士さん

■柔整学科 2010年卒業 7期生

■鍼灸学科 2015年卒業12期生

専門性をさらに磨き、 価値を高めたい。

柔道整復の保険診療が安定化し、
柔道整復師の役割が、さらに価値あるものになることを望む。

幼稚園の頃からスキーを始め、現在、冬季国体広島県選抜アルペンスキーチームの帯同トレーナーを務める原田さん。高校時代、トレーナーにお世話になったことから、「将来、トレーナーになりたい」との思いを持ちます。柔道整復師は、骨折や脱臼、打撲、捻挫、挫傷に対して整復固定ができるため、必ず取得したいと考え、卒業後IGL柔整学科に入学しました。
在学中は、授業が終わるとアルパイトの毎日。授業との両立には、最初はかなり苦戦しました。授業以外にも勉強しなければ、ついていくのは難しい。でも、じっくり勉強時間をとることも難しい…。考えた挙句、授業には真剣に取り組み、少しでもいいから毎日勉強することを自分に義務付け、習慣にしました。授業とアルパイトの両立を実現したこの経験は、時間がないことをプラスにとらえる良い人生勉強になったと、原田さんは振り返ります。

治療の幅を広げるためには、鍼灸の勉強も必要不可欠ではないか…。柔整の学びが深まるにつれ、そう感じるようになった原田さん。柔整学科卒業後、鍼灸接骨院に2年間勤務して学費を貯め、鍼灸学科に入学します。入学後は、整形外科クリニックでアルバイトをしながら学業に励み、柔道整復師と鍼灸師の資格と経験を携えて、卒業後、クリニックを経営する医療法人社団飛翔会に正式入職。病院で勤務しながら、トレーナー活動を行うための院内試験をクリア。夢実現のスタートラインに立